

令和元年度（平成31年度）
教育委員会事務事業の点検評価結果
最終報告書

令和2年8月
安八町教育委員会

I はじめに

1 教育委員会事務事業の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成19年に一部改正され、教育委員会の事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされました。また、点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

そこで、当委員会としては、次年度の事務執行に資するため、当該年度の事務について自己点検及び評価を行い、点検報告書としてまとめ報告いたします。

(参考)

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価の実施方法について

1 評価の対象

教育委員会が令和元年度（平成31年度）に実施した事務事業の中から主要なものを抽出し評価を実施する。

- ・教育委員会の活動状況：教育委員会会議の実施状況、調査活動の状況等
- ・教育委員会の事務事業：安八町教育計画に掲げる重点目標の執行状況及びその成果
- ・前年度の点検評価結果への対応状況：前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価がCまたはDとされた事務事業等に対する対応の状況

2 評価の進め方

①一次評価

各学校及び安八町教育計画重点目標に対する評価を行い、その結果を踏まえて事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

②二次評価

一次評価をもとに、評価委員により二次評価を実施する。

評価委員 4名	学識経験者	渡邊 二郎 様
	学校関係者代表（安八町校長会長）	金森 透 様
	保護者代表（安八町PTA代表）	渡邊 充康 様
	地域関係者代表（安八町商工会長）	高田 英雄 様

③最終評価

教育委員会は、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施し報告書にまとめ、議会に提出するとともに公表を行う。

3 評価の基準

点検評価においては、次の4区分により達成度の評価を行う。

評 定		評 価 区 分
A	75%以上	順調に達成しているもの
B	65%以上75%未満	おおむね順調に達成しているもの
C	55%以上65%未満	達成見込みであるが課題があるもの
D	55%未満	順調でないもの

(平成30年度改定)

III 評価結果の概要

1 教育委員会の活動状況

教育委員会会議の実施状況・・・(A) 順調に達成している
調査活動の状況等・・・・・・・・(A) 順調に達成している

2 事務事業の執行状況

主な施策・事業より21の事業(昨年度より1事業増)を対象に点検評価を実施した。
評価の結果は、以下の通り。

- (A) 順調に達成しているもの・・・・・・・・ 13事業／21事業中 H30(11事業)
- (B) おおむね順調に達成しているもの・・・・ 5事業／21事業中 H30(7事業)
- (C) 達成見込みであるが課題があるもの・・・・ 3事業／21事業中 H30(2事業)
- (D) 順調でないもの・・・・・・・・・・・・ 0事業／21事業中 H30(0事業)

3 点検評価結果の内容について

◇教育委員会の活動状況について

点検項目	実 績	成 果 (○) と 課 題 (▲)	評価
安八町教育委員会 会議の実施状況	1. 教育委員会定例会議 12回 臨時会議 2回 審議件数：専決報告 2件 議案 10件 内可決 10件 内審議継続中 0件 2. 安八町総合教育会議 2回 町長・副町長 教育長・教育委員 事務局：教育委員会、福祉課 3. 校長との懇談 学校訪問等で、年1回定期的に実施	○毎月の定例会にて報告、協議等を確実に実施できた。児童生徒の状況についての報告、協議を行った。不登校や問題行動について、情報交流や意見をもらい、学校に伝えることができた。 ○2学期制導入のメリットと改善点について、校長会で検討した内容を報告し、意見をいただくことができた。 ○「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動」について、2か年にわたり計画的に研修視察訪問した結果を交流し、令和2年度からの段階的導入に向けた道筋を立てることができた。 ○首長と教育委員が公の場で教育政策について議論する場を設け、教育基本計画の成果と課題について、年2回会議を開いた。 ○情報教育の現状、学力向上策等について、各学校の教育実践の様子を交流・共有し必要に応じて対応(解決に向けての方策の検討、アドバイスや支援等)することができた。	A

点検項目	実 績	成 果 (○) と 課 題 (▲)	評価
調査活動の状況等	<p>○町の教育委員会視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12月6日(金) <p>三重県いなべ市立石榑小学校 (コミュニティ・スクールに関する研修)</p> <p>○教育委員研修の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 西濃地教委連総会 教育委員研修会 ・ 11月 岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会 ・ 1月 安八郡教委連絡協議会 研修視察 <p>愛知県津島市立神守中学校 (コミュニティ・スクールに関する研修)</p> <p>○町内学校訪問や校長との懇談</p> <p>5月に各校1回実施</p> <p>○学校諸行事等の参観</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 小中学校入学式 9月 体育大会・運動会 11月 中学校文化祭 1月 町成人式 <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業証書授与式は3年生生徒とその保護者1名、学校職員で挙行することとなったため、教育委員会からの参列は控えた。</p> <p>○教育研究大会の参観</p> <p>10月31日(木) 登龍中学校</p> <p>○青少年育成関係参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月7日(日) <p>青少年育成町民会議総会</p>	<p>○学校訪問や校長懇談等を通じて得た現場の必要性に応じ、主幹教諭や町費支援員の配置、次年度学校教育予算編成(特に町費負担の支援員の拡充等)等の支援を計画的に行うことができた。</p> <p>○登龍中学校で行われた安八町教育委員会指定研究発表会では、「一人一人が自分の考えに自信をもち、仲間と学び合おうとする生徒の育成」を研究主題として、各教科において「導入、追究、交流」における具体的な手立てや支援の在り方を示した。また、PTA活動の発表から、生徒の学校生活や教職員の教育活動が充実した取組となるよう、温かいきめ細やかな支援をいただいていることが伝わってきた。</p> <p>○校内の安全点検を学校だけに任せるのではなく、学校教育課の職員のみでも確認をして、児童生徒の「安全・安心」な学校生活を確保しようと努めることができた。</p> <p>○生徒指導にかかわる事例について、学校を訪問して相談・助言したり、学校職員とともに保護者との懇談会に参加したりして、学校と教育委員会が連携して、児童生徒の健全な成長の実現に向けて活動することができた。</p>	A

◇事務事業の執行状況について（教育計画の評価）

<学校教育>

領域	重点目標	成果（○）と課題（▲）	評価
1. 学校運営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする	<p>H30▲勤務の適性化という課題の解決に向けて、カリキュラムマネジメントとタイムマネジメントの視点から、町全体や各学校で教育活動を見直すことを考える。</p> <p>→2学期制のメリットを生かす、高学年における教科担任制の導入、教師間の声かけなどをとおして、労務管理を進めることができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○昨年以上に効率的に仕事を進めて時間外勤務時間を減らすことができている。二学期制になったことも大きい。</p> <p>○学校長の指示のもと目指すべき方向を重点化して取り組み、学校だより等で保護者にも結果を公表しながら、成果や課題を明確にして取り組むことができている。</p> <p>▲仕事を減らさず効率化を進めるだけでは、現場の疲弊度は変わらない。多忙化解消に向けた方途を検証する必要がある。</p>	A
2. 研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	<p>H30▲若手教員育成という課題の解決に向けて、OJT(On the Job Training:体験させながら仕事を身に付ける手法)を取り入れ、指導のマニュアル化やその場その時の状況での指導を行う。</p> <p>H30▲全ての教職員が ICT を活用して授業や校務でさらに活用することができるように、校内のみでなく学校間交流もしながら町全体で実態に応じた研修に取り組む。</p> <p>→校内研修や事務所要請訪問などをとおして、若手教員の指導力育成を育むとともに、ICT 支援員等の専門的知識や技能を有する講師から学ぶ機会を設け、教師のスキルアップを図った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○ICT 機器活用の支援、研修の場が確保され、研修などをとおして活用を進めた。</p> <p>○若手教員の育成、研修にベテランや中堅が積極的に携わって成果を上げている(学級経営や生徒理解、生徒指導事例等)。</p> <p>▲GIGA スクール構想(一人1台の学習用パソコンと高速ネットワーク環境等を整備する計画)を進め、施設設備の充実を図っていく。</p>	A
3. 教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	<p>H30▲児童生徒が主体的で対話的な学習を進めることができるように、個の実態把握と支援の方法を工夫するとともに、全校体制で授業改善に継続して努める。</p> <p>→校内研究では、指導についての具体的方途を教員間で共通理解し、実践を積み重ね、省察して授業改善に努めることができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○主体的、対話的な学びに向けて、小集団交流での学習を工夫し成果を上げることができた。</p> <p>○仲間のよさを認め合い、支え合うことの大切さを考えさせることができた。そのため、進んで教え合い、高まり合う学習集団に育ってきている。</p> <p>▲新学習指導要領にそった学習過程、活動に向けた研修の充実が望まれる。特に、「対話的な学習」の面がまだ不十分であるため、検討する必要がある。</p>	A

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
4. 道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心をもち、かけがえない自他の生命を尊重する心を育てる	<p>H30▲小中学校の連携や学校と地域との連携という課題の解決に向けて、学校間の授業交流や保護者への道徳授業公開に積極的に取り組むとともに、青少年育成会議の場等で、願う児童生徒の姿や学校、家庭、地域それぞれの役割について理解し合う。</p> <p>→学年で道徳指導について共通理解を図ったり、道徳の授業や「ひびきあいの日」を保護者に公開したりして、学校と家庭が連携して、児童生徒の健全な心の育成に努めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○教科となったことで教科書、指導計画が確定したこともあり、推進教師を中心に授業の進め方を工夫し取り組むことができた。</p> <p>○話し合いを取り入れた指導過程や、他人事ではなく自分ごととして考えることを大切にして授業を実践した。</p> <p>▲種々の体験活動をとおして、道徳性を養う指導の工夫がさらに必要である。</p>	B
5. 小学校 外国語活動	外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	<p>H30▲ALTとの打合せ時間の確保という課題の解決に向けて、外国語活動推進教師との打合せ時間を週時程に位置付けたり、指導計画に役割の詳細を書き込むことで誰もが授業ができるようにしたりするなどの取組を考える。</p> <p>→自ら求めてALTと打合せをしたり、ICT機器を活用したりして、授業を実践することができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○町としてALT等外部講師の配置ができており、連携して英語教育の充実に努めることができた。</p> <p>○教材や情報機器を活用してねらいを明確にした実践ができ、児童たちが楽しく授業ができた。</p> <p>▲教科としての外国語、中学年の外国語活動の実施に向けての町としての共通理解、研修(共通実施の目安等)を位置付けたい。</p>	B
6. 総合的な 学習の時間	探究的な学習をとおして、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	<p>H30▲個に応じた指導や支援ができるようにするために、付けたい力を明確にし、テーマや活動を精選する。</p> <p>→総合的な学習の時間の出口を、下学年に学びの成果を発表する活動を位置付けるなどして、学びの連続性と次学年で身に付けたい力を示した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○それぞれの学年に応じたテーマ、探究課題を明確にした体験活動を仕組み、さらに振り返りやまとめを行うことができた。</p> <p>○「よりよい町づくり」をテーマに、調べたり提言を考えたりする学習を推進することで探求的な学習に近づくことができています。</p> <p>▲探究的な見方、考え方を働かせ、力をつける授業になっているか等、資質・能力・評価について検討していきたい。</p>	A
7. キャリア 教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる	<p>H30▲小中学校の連携が不足しているという課題解決に向けて、中学校区ごとに作成している「キャリア教育に関する学習活動・題材系統表」をもとに、キャリア教育担当者が中心となって情報交流や授業参観交流などを計画する。</p> <p>→キャリアパスポートを活用して、自分の成長を確認したり、次の目標を明確に設定したりすることを継続することで、自己肯定感の高揚に努めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○キャリアパスポートを活用して、ステージごとの目標設定、実践、振り返り、再設定や反省を、組織的、計画的に行うことで児童が自分の成長や課題を見つめられた。</p> <p>○キャリア教育としての系統的な積み重ねができた。</p> <p>▲キャリアパスポートの在り方、活用について、小中で十分に共通理解し共通実践していく必要がある。</p>	B

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
8. 特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる	<p>H30▲学級の諸問題を解決する活動をとおして、児童生徒自らがよりよい生活を創り上げていくことができるように、学校として願う姿を学級の実態に照らして計画的にリーダー育成を進め、リーダーを中心として学級全体を引き上げる。</p> <p>→ステージごとの目標に向かって、児童会・生徒会組織を生かし、話し合い活動を適切に位置付けるなどして、自治力の育成に努めることができた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○係活動や委員会活動等で働く姿や仲間のがんばりに応える姿を教師が紹介したり、児童同士で認め合ったりすることで、自己有用感を高められるように努めた。</p> <p>○特活指導部からのステップごとの活動計画が提案され有効である。特に若手教員の指針となっている。</p> <p>▲自ら集団の課題解決のための話し合いを充実させることで、集団の高まりを求めさせていきたい。</p>	A
9. 生徒指導	共感的な理解に徹し、よりよい人間関係の形成と自己指導能力を育てる	<p>H30▲生徒指導上の諸問題を一人で抱え込まず、より多くの職員の共通理解を図る取組をさらに推進するために、生徒指導主事、特別支援コーディネーター、教育相談コーディネーターの3者が連携し、家庭や専門機関との交渉にあたり、支援計画等を作成する。</p> <p>→問題行動や不登校傾向、特別な配慮を要する児童生徒について、外部関係者を交えたケース会議を開くなどして、組織的な具体的な対応ができるように努めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○生徒指導主事を中心に、早期発見、早期対応にこころがけ、全職員で情報を共有しながら保護者とも連携し、組織ぐるみの対応を図ることで、未然に防いだり小さな内におさめたりすることができている。</p> <p>▲SNSによるトラブルが増加していることから、情報モラルについて、児童生徒・家庭に向けて継続した支援・啓発が必要である。</p>	A
10. 健康教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	<p>H30▲環境の変化に応じた指導を進めるために、年間計画を見直したり、PTA活動や地区集会の場等で家庭や地域への啓発や協力依頼を引き続き行ったりする。</p> <p>→学校で取り組んだことについて、「保健だより」とおして家庭に広めた。さらに、歯磨き調べや生活リズムチェックなどの協力を依頼した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○運動・食事だけでなく睡眠も大切だということを活かしつつ、携帯電話やSNSの使い方もつなげて指導できた。</p> <p>○食物アレルギーのある児童生徒への配慮、確認が保護者と連携して適切にできた。</p> <p>▲健康面に対する個別指導の充実を図りたい。</p>	A

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
11. 特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	<p>H30▲家庭環境や学校環境に応じた無理のない合理的配慮をするために、特別支援教育コーディネーターが中心となって学校体制でケース研修会を行うとともに、保護者との合意形成のための懇談を定期的に行う。</p> <p>→学校職員全員で一人一人の児童生徒の様子を観察し、困っている状況についてケース会議で検討した。また、担任や特別支援教育コーディネーターが本人並びにその保護者と継続して相談を重ね、本人にとって最善の支援の在り方について考えることができた。</p> <p>○主幹教諭や専門家からのアドバイスを受けながら、担任だけでなく学校組織として個に即した支援体制を設けて指導が進められた。</p> <p>○児童や保護者に粘り強く関わることで、よい方向に児童が変容したり、保護者の理解を得ることにつながったりした。</p> <p>○町費児童生徒支援員の配置が手厚く、また昨年度よりも弾力的な運用ができるようになり、細やかな対応が可能となった。</p> <p>▲通級指導との通常学級、通級指導と支援学級との連携をさらに緊密にし、特別支援学級に入級した良さを、児童生徒と保護者が実感できるよう成果を上げたい。</p>	A
12. ふるさと教育	ふるさと(地域・安八町・岐阜県)への誇りや愛着を育てる	<p>H30▲授業で地域の行事を取り上げたり、授業に地域の人材を招聘したりして、ふるさとを児童生徒の身近なものにすると同時に、教職員が地域のことを知る必要もある。学校ごとの資料整理に努めるとともに、町全体の資料整理を教育委員会とともに進行。</p> <p>→地域人材を活用したり、行政と連携したりして、安八の産業や防災、政治について学ぶことができた。また、地域の方に支えられて生活したり学習したりできることを実感させ、他者への感謝の気持ちももてる子どもの育成にも努めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○地域の題材や地域人材を多く活用した多くの活動を仕組むことができ、学びを進めている。</p> <p>▲ふるさとを題材として取り上げた学習や活動は多いが、今後はふるさとの良さを感じたり愛着がもてたりする指導の充実を図りたい。</p>	B
13. 人権教育	相手の立場や権利を重んじ、正しい認識に立って公正・公平に判断し行動できる児童・生徒の育成	<p>○年間をとおして仲間のよさみつけを行うなど、日々の生活の中で確かな人権感覚が身に付くよう指導に努めた。</p> <p>○道徳の授業や図書館活用を通し、様々な人がいてそれぞれの立場を大切にすることを指導することができた。</p> <p>○いじめや他の人が嫌な思いになる言動に対して、アンテナを高く張り、組織的に対応できた。</p> <p>▲人権を意識した活動が日常的に行われている。そのことが自己啓発力や行動力につながるよう、指導の充実を図りたい。</p>	B

生涯学習・社会教育

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
1. 家庭の教育力の向上	学びのある家庭教育学級を通じた家庭の教育力向上	H30▲取り組み形式が毎年同じにならないよう工夫した方がよい。 →家庭教育学級リーダーや学校職員の研修の充実, 具体的な事例を示した「家庭教育プログラム」を活用して, 家庭教育支援体制づくりを進めた。 ↓ ○家庭教育学級役員会やリーダー研修をとおして, 内容の充実と拡大を進めることが出来た。 ▲会員のニーズを十分に把握したい。	A
2. 地域社会の教育力の向上	社会教育団体との連携の強化	H30▲研修会の成果を, 十分に活かすことができなかった。学んだ内容をいかにして広めるかが課題である。 →公民館, 子ども会育成会などが実施する事業への支援を積極的に行った。 ↓ ○研修会への参加では, 共感できる市町の発表から大きな刺激を受けた。行政・学校・地域の連携による活動を見直すきっかけとなった。 ▲地域学校協働活動の位置付けを明確にし, 早期に組織化を図る必要がある。	A
3. 子どもたちを見守り育む環境づくりの推進	青少年育成関係団体の主体的な活動への支援	H30▲「思いやりのある町づくり運動」, 「1家庭1ボランティア活動」など, 町や県と連携して進めるべき内容が十分各家庭や地域に浸透しなかった。 →青少年の豊かな人間性を育む青少年育成団体の主体的な活動を積極的に支援した。 ↓ ○ジュニア文化サークルでは, ニーズに対応する新しい講座を開講し, 成果をあげることができた(応募も定員の倍となった)。 ▲講座の内容を継続していくためのボランティア団体の育成がなかなか進まなかった。後継者の育成をどのように進めていくか検討する必要がある。	C
4. 主体的な学習活動への支援	地域社会における人材の情報の収集, 活用の推進 中央公民館・ハートピア安八等生涯学習施設による学習機会の充実 図書等図書館資料の幅広い収集と提供 安八ったえ話やてるてる姫伝説の紙芝居を活用した取り組みの推進	H30▲ふるさと題材の講座メニューや伝統文化継承に関わる活動を広めていくことが難しかった。これからの講座充実のための新たな人材情報が少なく, 育成・活用にも活かすことが出来なかった。 →社会教育団体の指導者の養成と資質向上を目指した研修の充実を図った。 ↓ ○広報活動をとおして, タイムリーな情報発信を積極的に行った。また, ガイドブックのデザインや内容を精査し, 情報が多くの方々に伝わるようにした。 ○星空案内人の養成講座の継続開催により, 学習機会の充実を図った他ボランティア養成にもつながった。 ○青年講座を生涯学習にして, 多くの方々や今まで年齢的に参加できなかった人へも講座参加の場を提供した。 ▲図書館・郷土資料館の資料の収集は十分とはいえない状況である。施設としての魅力向上に向けた取組が必要である。	A

領域	重点目標	成果(○)と課題(▲)	評価
5. 人権尊重の教育の推進	生涯学習講座, 家庭教育学級, 出前講座等での人権学習の位置付け	H30▲より多くの場で人権教育に関わる情報提供と学習機会を増やしていく必要がある。 →人権問題解決のための学習機会と指導体制の充実を図った。 ↓ ○人権問題解決に関わるふれあい体験学習や, 様々な講座での人権学習の位置付けを行うことができた。 ▲人権教室の継続的な開催と人権啓発のための情報発信をより拡大し, 充実させていく必要がある。	C
6. スポーツ振興	親子・三世を対象にした家庭参加型プログラムの提供 健康の維持・促進のためのスポーツ教室の開催 スポーツ施設の管理・調整と利用促進各種スポーツ事業, 行事・研修会等の広報活動の充実	H30▲スポーツと健康づくりに対する強い関心と要望に応えられる指導者の確保, 施設用具の充実策を具体化することが強く求められる。現状では, 町民の方々に今まで以上にスポーツ振興・推進ができるか疑問。 →町民のニーズにあうプログラムの提供をめざし, 各種団体と連携して, 講座・イベントの更なる充実を図った。 ↓ ○ファミリースポーツの一環として, 親子スポーツレクリエーション体験会を開催, 親子空中アスレチック教室に代わる事業として, 親子スポーツレクリエーション体験会を募集したところ, 20組41名の申し込みをいただき, 町総合体育館において実施した。 ○「やったことのないレクリエーションばかりで新鮮でとても楽しかった。また, 来たい。子どもと話しながら出来てよかった。親子で体を動かして楽しかった」といった意見をいただいた。 ▲既存のスポーツ器具を使用して開催したが, 器具が老朽化しており, 施設用具の充実に向けて検討する必要がある。	A
7. 文化芸術活動の振興	ジュニア文化サークルの学習, 体験活動, 学習発表会の充実 文化団体の育成と支援	H30▲今後も, 年齢を問わず町民が文化的に関わることが出来る機会をしっかりと確保していくことが必要である →ジュニア文化サークル, 文化事業, 夏休み親子教室, 短期教室の魅力ある企画作りと内容の充実を図った。 ↓ ○ジュニア文化サークル活動は, 大きく評価されている。今後も続けられるよう望む。回を重ねるごとに, 優れた成果を残している。 ▲多くの幼児, 児童, 生徒が希望通り参加できる枠組みを作ることが必要である。	A
8. 文化財や伝統芸能の継承・発展	町民のニーズにあった企画運営や多角的な文化情報提供の推進	H30▲教えていただく方も高齢化により減少する心配がある。引き継ぎと後継者の育成の必要性を感じる。 →町民の関心を高めるための魅力ある展示の工夫, 歴史民俗資料館の見学や資料貸出の促進を行った。 ↓ ○ハートピア安八歴史民俗資料館で, 常設展及び希望されたテーマに応じた講義を実施できた。また, 毎月発行のたよりをとおして文化財等の紹介をした。 ▲興味のない方々をどう引き込めるか, 引き続き検討を重ねていきたい。	C

【点検評価委員会】

- ・開催日時： 令和2年6月29日（月）午後1時30分から午後3時10分
- ・場 所： 安八町中央公民館 1階 教育長室

<令和元年度（平成31年度）事務事業の点検評価（二次評価の実施）について>

評価委員：教育委員会から、児童生徒の安全・安心を確保するための適切な指導が継続して行われている。今後、校内安全点検を実施する際には目視と点検表への記入だけでなく、「施錠よし」等と点検箇所を指で指し示しながら声に出して確認するとよい。

評価委員：課題については、次年度に向けてどのような取組を行うのか、その方向性をもって新年度を迎えるようにすることが重要である。

評価委員：安全指導、生徒指導が丁寧に行われているが、登下校時の様子が気になる。特に、交差点で青信号ではあるが、周りの様子を確認することなく勢いよく自転車で走る姿には交通事故に遭わないか心配している。絶えず同じことを何度も繰り返して指導していく必要がある。

評価委員：車で走行中、横断歩道を渡ろうと待っている児童生徒を見かけたときに停止することがある。すると、頭を下げてお礼をする児童生徒もたくさんいることが嬉しく思う。

評価委員：文化財や伝統芸能の継承について、「C」評価が続いている。町民の関心を高めるために、例えば歴史民俗資料庫に保管されている史料やハートピア安八が毎月発行している「たより」等を広く町民に周知する等、「B」評価へと高めていく方策を打ち立てることが大切である。

評価委員：全体として、課題の表記の仕方を一考するとよい。反省で終わるのではなく、今後の取組が明確に分かる表現にすることを望む。

評価委員：新型コロナウイルスの感染拡大防止、熱中症予防対策、いじめ問題、そして教職員の働き方改革等、教育委員会や学校現場は様々なことに気を配り具体的な対策をとっていかねばならない。現在のところ、周りから心配な事案が発生しているとは聞こえてこないが、実際の様子はどうか気になっている。

学校教育課：新型コロナウイルスの感染拡大防止については、3月より週に1回程度の割合で臨時校長会を開き、児童生徒の家庭での学習保障、心のケア等について具体的な取組を考え、管内の小中学校が同一歩調で実践した。

感染を防ぎながら熱中症を予防する対策を考えるに当たり、専門家や学校医の意見を参考にしながら取組を考え、文書で保護者にお知らせした。

いじめについては、未然防止を目指して日頃から教職員が組織で動き、情報交換を行いながら適切な対応ができるよう努めている。最近増えているのが、SNSを介した嫌がらせや誹謗・中傷である。便利な道具を適切に使いこなし、かつモラルを守ることの重要性について、今後も継続して児童生徒と考えていく時間を設けたい。

学校の教職員が、児童生徒とともに過ごす時間を増やし、適正な勤務の実現を目指して、教育委員会では国や県等からの調査や様々な提出物等について、校長会や学校訪問、日頃の教職員との交流で得た情報をもとに、可能な限り教育委員会で作成し、学校に報告文書の内容確認を依頼している。このように、教職員の負担軽減につながる取組を今後も続けていきたい。